

梅窓院通信

No.56
2012/01/01

青山



第2回秋彼岸写真コンクールグランプリ受賞作品

「浴衣とドレスの出会い寸景(南青山ブティック前にて)」

撮影：様

今年も第3回秋彼岸写真コンクールの開催が決定致しました。詳細はまた後日発表致します。

住職挨拶

梅窓院第二十五世

中島 真成



新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願い申し上げます。

昨年は浄土宗法然上人の八百年大遠忌の年でした。梅窓院でも記念事業として寺号塔の造立、そして、周りを八百年にちなみ八角形に囲んだ蓮池の新設、五月には大遠忌法要を施餓鬼と併修、昨年末からの墓域通路整備と、こうした形で法然上人への報恩感謝の念を表わすこととなりました。

昨年はまた、東日本大震災という未曾有の大災害にも見舞われた年となりました。国内観測史上最大の津波、それによって引き起こされた原発事故。改めて自然の脅威と人間の作った技術のもたらす恐怖を突き付けられ、日本中の人々が家族や社会との絆、そして日々の生活を見つめ直すきっかけとなりました。微力ながら、梅窓院でもチャリティー行事を行い被災寺院に義援金をお送りしましたが、支援はこれからも続けていくつもりです。

平成も早二十四年目となりますが、この一年は六大法要の充実を目標としておと思っています。修正会、春彼岸会、施餓鬼会、盂蘭盆会、秋彼岸会、十夜会の六つの法要です。ここ数年で新しく始めた法要にもだいぶ慣れて参りましたので、さらなる充実を図って参ります。また、春秋の彼岸では郡上の物産展、ライブというイベントも例年通り続けて参ります。今年も多くの皆様にご参詣、ご参加いただきたく存じます。

さて、皆さんにお寺の案内などをお届けする各種封筒の送り主名に、梅窓院だけでなく倉常寺という寺名も併記していました。このお寺は埼玉にあり、私が住職を兼務していたのですが、昨年倉常寺の住職を退任したことから、今後梅窓院名だけの封筒に移行して参ります。倉常寺は中島家と縁の深いお寺で、今回の特集で紹介していますのでご覧ください。

最後に、この一年が穏やかな一年になることを心より祈念申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

正月七日と七草粥

新宿区 香蓮寺住職

勝崎 裕彦

正月七日、略して七日である。「なのか」と読んでもよいが、

季語欄には「なぬか」とルビが振られていることが多い。いわゆる五節句(五節供)の一つ、人日・人の日であり、七日正月・七日の節句・元七ともいい、七草(七種)の日でもある。

三が日をおだやかに過ごして、松の内・松七日が終わる節目・区切り目の日が正月七日というわけである。人日とは、一日から六日までは雞・狗・羊・猪・牛・馬の家畜を占い、七日はその年の人事を占うから人の日であり、中国では人勝節ともいう。なお、八日は穀の日に当てている。

何をもって人日の客もてなさん(虚子) 炒ごまの爆せて明るき七日かな(春枝)

高浜虚子の句には、七日の客をおだやかに迎えて、ねんごろにもてなそうとする思いやりが込められている。神並春枝は、「爆せて明るき」という中七に、その年の活況と明朗を願っている。

さて春の七草――。

せりなづな五形はこべら仏の座 ずなずなずしろこれぞ七草

南北朝時代の代表的な歌人、左大臣

四辻善成の作と伝えられる有名な一首である。漢字で書けば、芹・薺・御形・藜・菘・仏座・菘・蘿蔔という順序次第もよろしい七草である。

正月七日の七草の祝・若菜の節に、七草粥を食べて、新しい一年の無事息災と健康第一を祈り願う風習もまたゆかしいことである。弘化四年刊の淡水亭伸也著『合類俳諧忘具』に、「人日、この七種を食ひて百病を除す」と記されているが、七草粥に無病を祈り、病氣平癒の除病を祈願する庶民の心もまことに尊いものである。地方によつては七草雑炊(七雑炊)・七草雑煮として、七種の若菜をお国ぶりゆかしく食べ合うのである。七草には、実際に滋養の効能があり、なによりも松の内

の正月料理、おせち料理や祝い酒に少しく疲れた胃腸にとつては快い香気あふれる温かい祝い物である。以下、七種七草の薬用の主な効能書きを記しておきたい。 芹は、香りもよく、浸し物から和え物、汁物、漬け物等に有効に食べることができ、水湿地を好むドクゼリには要注意。

薺は、止血効果が高く、止血剤の主力としても利用される。果実や葉根を煎じて眼病に、葉根の黒焼きは腹痛に

薬効がある。

御形は、蓬と同じように、若苗を餅につき込んで食用とした。おいしくはないが、その香気を薬味として身心に尊んだ。

藜は、青菜を食べて母乳がよく出る効能があり、またハコベ塩で歯を磨けば歯ぐきの出血や歯槽膿漏をおさえる効果がある。

仏の座は、和え物として食用するというが、とりたてていうべき効能はない。仏の座という名前そのものが、大きな効能を持つているといえるか。

菘は、水菜・青菜・京菜、あるいは蕪の別称で、香気の青野菜としての効用がある。

蘿蔔は大根でもあるが、清白菜とも書いて、ジアスターゼを多量に含んで消化剤の効能がある。葉は乾燥させて入浴剤に用いられるほか、胃酸過多・胆石・腎臓病・歯痛などさまざまな薬効を有し、蜂蜜に混ぜて飲めば咳止めにも効果がある。

七草の粥のあをみやいさぎよき(青々)

松瀬青々が作句したように、七草粥で身心を若々しく養って、すがすがしく汚れなき一年を願いたい。

(大正大学教授)

九・十・十一月の

行事報告



秋彼岸法要の様子

秋彼岸法要・彼岸寄席 9月23日(金)

お彼岸ライブ 9月24日(土)

第54回 念仏と法話の会 10月7日(金)



M・ファン・デン・フック ピアノリサイタル 11月25日(金) サントリーホール

十夜法要・芋煮会 11月19日(土)



文化講演会 10月22日(土)

修正会

しゅししょうえ



2012年1月1日(日)

修正会法要

午前10時～ 2階 本堂

お雑煮

午前11時～ 1階 観音堂エントランス

(絵馬について)

新年のお参りに来て頂いた方にお配りしている絵馬ですが、今年より元旦のみ一軒に一体のお渡しとさせていただきます。

二体以上ご希望の方は事前に文書(FAXかハガキ)でお申し付け下さい。二体めから一体千円でお譲りいたします。

(曆について)

年末に各檀家さまに1部お送りさせていただいております。2部以上ご希望の方はこちらも文書(FAXかハガキ)にてお申込み下さい。

2部目から1部千円でお譲りいたします。

新年に寄せて

昨年は東日本大震災を始め、原発事故や台風、金融危機など、本当に色々な事がありました。諸々の事柄に右往左往している内に「あつという間に」もう新年を迎えた、といった感が否めません。考えてみますと、昨年ほど私たち日本人の精神力と品格を試された年はなかったのではないのでしょうか。未曾有の混乱と困難の中で、私たちが忘れてはならない事は、色々な繋がりの中で、自分が「生かされている」という事であり、その繋がりの中で生かされているという事は、その繋がった先も幸せにならないと自分も本当の幸せは得られない、という事です。

「二年の計は元旦にあり」といいます。元旦には梅窓院でも「修正会しゅししょうえ」という法要が執り行われます。

修正会とは「正月に修する法会」といった意味で、各寺院において毎年一月に社会の平和と人々の幸福を祈って行われる新年最初の法要となります。新たな気持ちで新年を迎えるにふさわしいお勤めです。無事新年を迎えられた事とともにご本尊さまに感謝し、社会と人々の幸福を願って一緒に手を合わせ、南無阿弥陀仏のお念仏で二年をスタートしましょう。
(法務部・菅原)



※お雑煮の振る舞いは元旦のみになります。修正会に参列頂いた方から優先的にお雑煮の振舞いをさせていただきます。なお、数に限りがございますので予めご了承下さい。

倉常寺 晋山式

(第二十三世瀧沢孝彦上人就任)

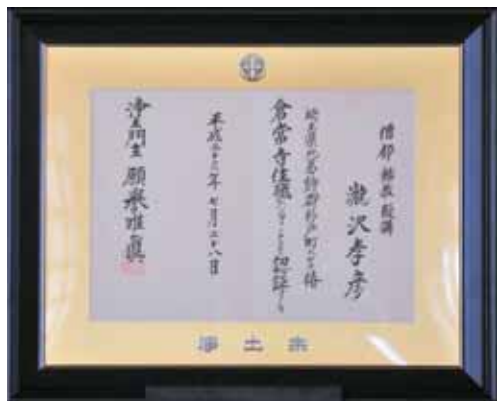
梅窓院から皆様に届く封筒の表に併記されている倉常寺というお寺。「このお寺は何なのだろう」と思われていたかもしれませんが、実はこの倉常寺、梅窓院の中島真成住職が住職を兼ねていたお寺で、中島住職の生家でもあります。中島姓で四代、そのうち三代が世襲でしたが、この度、梅窓院に奉職している瀧沢孝彦上人が住職となりました。その住職就任の式典と倉常寺について特集を組み、中島家のルーツに迫ります。



中島前住職から払子を渡される瀧沢新住職。



衣と過去帳も新住職へ伝授された。



書類上は平成二十三年七月に新住職就任となっている。

晋山とは山に晋すすむという意味で、そのお寺に入る、つまり住職になることを意味します。

実は多くのお寺は三つの名前を持っています。山号、寺号、院号がそれで、梅窓院は正式名称を長青山寶樹寺梅窓院ちやうせいざんぼうじゆめいそうじといいます。「なぜ、平地に建っているお寺もある

瀧沢孝彦新住職。



るのに山がつくのか、不思議に思われるかもしれません。お寺に山号がつく理由、それはお寺建立の歴史にあります。日本に最初にたくさんのお寺が建立されたのは天平の昔(八世紀半ば頃)で、聖武天皇が国の安泰を願う国分寺と国分尼寺を全国各地に建立しました。国を護るお寺ですから、安全な場所、つまり災害に強い場所に建てられました。震災や水害などの自然災害に遭いにくい場所ということから地盤の良い土地や高台、山腹が選ばれたようです。こうした場所にあったお寺が、シンボリックな山の名前で呼ばれ、やがて山号がつけられるようになったようです。それが慣習となり、山と無縁の場所にある寺にもこの山号をつけるようになったのです。ですからこの山号にちなみ「山に晋む」という晋山が住職に就任する

という意味になったのです。余談ですが、「法灯を継承する」という言い方もあります。法は「お釈迦さまの教え」、灯はそのままで「ともし火」のことで、お釈迦さまの教えを目指すべくともし火とする、これも住職になるという意味をも持つ言葉です。

さて、住職交代をお披露目する晋山式の特徴は、その寺の住職でなければ扱えないもの、身につけられないもの、あるいは住職が管理するものを受け渡すことです。つまり、ほしす 弘子・衣・過去帳で、弘子は住職が法要の導師として使う手に持つ仏具、衣は住職が特別な法要などで身につけた衣や袈裟、そして過去帳は檀家さん



新住職への期待を語る 檀家総代。

の先祖代々の記録で命日や俗名、戒名が記されるお寺にとっても大事なものです。こうした特別なものを前任職が直接新住職へ渡す儀式こそ晋山式ならではの特別な儀式で、この儀式を中心に法要が組み立てられます。倉常寺の晋山式でも梅窓院住職と倉常寺住職を兼ねていた中島真成上人から瀧沢孝彦上人へ、弘子・衣・過去帳が直接手渡されました。写真はその弘子を渡すところです。また開扉式という特別な儀式も行われます。これは三門や本堂の扉を読経とともに開く儀式です。こうして平成二十三年十月二十三日、倉常寺晋山式が行われました。当日は天気予報では雨でしたが、曇りの後に晴れとなり、お練り行列も滞りなく行うことができました。

四代続いた中島家からその法灯を継いだ瀧沢孝彦新住職へ檀家さんが望むこ

とを倉常寺の 檀家総代に伺いました。

「中島家の三代の倉常寺住職さんたちは梅窓院の住職になられたこともあり、東京とここ椿(倉常寺)を行ったり来たり。今度の住職さんも今まで通り梅窓院のお手伝いもされるとは思いますが、一日でも多く、そして少しでも長くこの倉常寺に居て欲しいものです」

檀家総代のこうした願いに新住職も気持ちを新たにされ、住職として励めることでしょう。



お袈裟の話

晋山式や梅窓院の法事で導師が身につけているのが七条しちじょう袈裟です。下の袈裟は倉常寺晋山式で新住職が被着した檀家さんから寄進していただいた七条袈裟ですが、縦の帯で七つに分かれていることから七条袈裟と呼ばれています。袈裟は仏教発祥の地インドで、余り切れを縫い合わせ、それを泥水で色をつける形で生まれました。今日ではその名残を残す袈裟から金糸銀糸をふんだんに使った袈裟まで色々な種類があります。皆さんにお寺から授与させていただいている輪になっている輪袈裟もその一つです。袈裟を身につける時には短いお経を称え、心を清浄にして被着するのが正式な作法です。

晋山式で新住職が被着した七条袈裟。晋山式のお祝いに倉常寺の檀家さんから寄進されたもの。



倉常寺と中島家

倉常寺の創建を示す数少ない史料のひとつに、江戸時代に徳川家康が制定した関東十八檀林・岩槻の浄国寺に残る『檀林岩付浄国寺志』があります。この寺志の本末清縁という項目の中に以下のよう記述があります。

「下総国葛飾郡椿村 寶椿山 倉常寺 開山宗蓮社迎響玄珠上人 正保四年七月起立 承応三年七月十二日寂」

この記述から、倉常寺は正保四年、一六四七年に現在地に玄珠上人という方が浄国寺の末寺として創建されたことがわかります。親寺である浄国寺は檀林という浄土宗の僧侶になる為の学問所で、芝の増上寺や鎌倉の光明寺など全部で十八ある特別な寺のひとつです。倉常寺はこうした檀林寺院を中心に浄土宗が組織化されていく中で建立された寺院なの



桜が並ぶ参道。左右にお地藏さんが並び、右手に弁天様のほこらがあり、その奥に本堂が聳えている。



晋山式練行列の中宿となった真孝上人夫人の実家。倉常寺から歩いて5分。

です。

そして倉常寺ができた頃に周辺の椿村も開発されました。明治時代に編纂された資料に倉常寺の境内は「東西二十四間、南北二十五間、地所六百坪、村の中央にあり」とあり、参道には二十二体という数多くのお地藏さまが残り、弁天様のほこらも参道脇にあることから、倉常寺は椿村のシンボルであったと考えてよいでしょう。

さて、この椿村倉常寺の第十九世が中島眞真というお坊さんでした。その住職のもとに二人の子供が預けられました。その一人が後に中島眞孝となる荒木孝二です。荒木家は春日部にある円福寺という浄土宗のお寺に墓を持つ浄土宗の信徒でした。その三男の孝三少年は次男の兄とともに倉常寺に弟子入りしましたが、兄の方はお坊さんになることをやめ、弟だけが坊さんになったのです。



梅窓院から倉常寺参道脇に移築してきた茶室。



歴代住職が眠る歴代墓。

明治二十九年にお寺に入った荒木孝三少年は、昭和七年、中島眞孝という名前のお坊さんとなり倉常寺の第二十世住職になったのです。中島眞孝住職は仏教界のみならず教育界でも活躍した浄土宗を代表する僧侶で、海外寺院や宗門学校で大変活躍された方です。そうしたことから、同じ年に梅窓院の住職にもなられました。以来三代、真孝上人、真哉上人、眞成上人が順に倉常寺の住職になり、梅窓院の住職であられながら倉常寺の住職を兼ねるといふ時代が続いたのです。三人とも梅窓院に居る時間が長いこともあり、

上人・ 上人・

上人という倉常寺に常住するお坊さんもいました。

百数十軒の檀家さんが中心になって支えたきたお寺という面もあるのが倉常寺です。その倉常寺が中島家から熱海の浄

土宗寺院海福寺の次男である瀧沢孝彦上人へと住職が継承されることになったのは倉常寺にとっても大きな出来事です。これからは三十代の若い住職が新たなお寺の歴史を刻んでいくことになるのです。

倉常寺歴代住職

- 十九世（一八九三）
中島 眞真
- 二十世（一九三二〜一九五八）
中島 眞孝
- 二十一世（一九五八〜一九八八）
中島 眞哉
- 二十二世（一九八八〜二〇一一）
中島 眞成

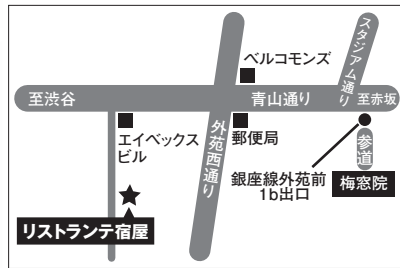
- 二十三世（二〇一一〜）
瀧沢 孝彦
(副住職として住持)

RISTORANTE SHUKUYA

レストランテ宿屋

かの有名なレストランテ濱崎にてソムリエを務めた宿屋オーナーが昨年オープンしたお店。震災の影響で大変な苦労をされながらも、お客様第一の姿勢が随所に伺えるお話しぶりに人柄が表れる。
ランチは三千円と四千五百円と少々お高いが、オーナーこだわりの美しい器に色とりどりの食材が運ばれてくればその値段にも納得できる。

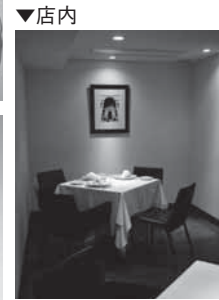
様々な種類のキノコを包んだラビオリや、中でも、うるこが香ばしく焼き上げられたハタの炭火焼は絶品！素材を最大限生かした料理を、というシエラのこだわりが随所に感じられる。日本の食材もふんだんに使用し、上品な味付けなので、年代問わず楽しめます。
ディナーのコースは逆にリーズナブル。おもてなしの心が行き届いた居心地のよい店内で、オーナーお勧めの極上ワインと共に味わいたい。



営業時間/ランチ 12:00~13:30(L.O.)
ディナー18:00~21:30(L.O.)
定休日/日曜日 席数/18席
住所/東京都港区南青山3-4-12
TEL/03-5775-4980 FAX/03-5775-4981



◀前菜は、月によって内容が変わります。



▲ランチは、3,000円のコースと4,500円のコースの2種類のみ。(税・サービス別)

大きなガラス窓が目印▶

青山俳壇

選者「ウェブ俳句通信」編集長

大崎紀夫

- ◎特選
爽やかや手甲脚絆をつけしより
- ◎入選
蕙の花小さき風をとらへたる
刈りどきの近き稲田の濃く匂ふ
晩秋や秩父に残る絹の道
青空に銀杏黄葉のきはやかに
おりんの音仏壇に深し秋來たる
城門に燃え移るかに曼珠沙華
あでやかなかんざしのよう百日紅
あらたなる墓碑に家名や秋日和
秋の夜茶をすすりつつもの思い
山門に山彦育つ夏の寺

◎選者詠
空とほき日なれば雀蛤に
大崎 紀夫

（ワンポイントアドバイス）
俳句の五七五を「かみ・なか・しも」と出すことを字余り、足りないことを字足らず、といいます。この字余り、字足らずに対する態度は人さまざまですが、わたしは「上五の字余りはいいが、中七下五は可能な限り守る」といっています。声に出して読んだとき、特に中七の字余りの句は、調べがよくないからで、わたしは俳句は調べがいいのち、だとながらいつているわけです。

江戸の雑煮と小松菜 食は命 武鈴子

正月に雑煮で祝う習慣は室町時代に始まったようですが、所変れば品変る。お椀の中身も味付けも地域により、各家庭によって特徴がありさまざまです。

関東地方の雑煮には必ず小松菜が添えられます。小松菜の名の由来は、江戸中期に江戸川区小松川付近で栽培されたことにちなむといわれます。収穫期によって冬には「冬菜」・「雪菜」、初春に出回る若いのは「うぐいす菜」などと呼ばれています。

ほうれん草とならぶ緑黄色野菜の代表で、カルシウム含有量が多いのが特徴。ほうれん草の3倍以上も含まれていて、骨粗しょう症、ストレス、精神不安、不眠などの予防に効果的な野菜です。そのうえアクが少なく下ゆで不要のため、煮物、お浸し、炒めもの、お味噌汁に手軽に調理できます。

ただ、カルシウムはビタミンDと一緒に摂ることで吸収が高まるので、Dを多く含むきのこ類などと一緒に調理するのがコツ。こんな一品などいかがでしょう。

小松菜と鶏だんご汁(2人分)

①小松菜1/2束はさつと茹でて4cm長さに切る。干し椎茸2枚は水に戻して、細かく切る。②鶏ひき肉をボールに入れ、みじん切りの生姜大さじ1とねぎ大さじ2、椎茸、南蛮みそ小さじ2を加えてよく混ぜ、一口大のだんごに丸める。③鍋に鶏がらスープを入れて火にかけ、沸いてきたら鶏だんごを入れる。④だんごに火が通ったら、酒、醤油、塩で味を調え、小松菜をだんごの脇に入れて1~2分味を含ませて火を止める。小松菜の色が飛ぶので煮すぎないように。

投句募集

今回は「冬の季語」でご自由にお詠み下さい。1月15日を締切、平成24年3月発送の『春彼岸号』にて発表致します。住所、氏名をお書き添えの上、ご応募下さい。皆さまの投句をお待ちしております。
〒107-0062 港区南青山2-26-38
梅窓院「青山俳壇」投句募集係

「やぶれ傘」会員募集

青山俳壇の選者、大崎紀夫先生による俳句の会です。ご興味のある方は、下記の番号までご連絡下さい。
ウェブ編集室
電話03-5368-1870

行事予定

第55回 念仏と法話の会

2月10日(金)

時間 12時半～(受付12時より開始)

法話 「三心四修」

講師 熊本教区 遣迎寺住職
山崎龍道 上人

梅窓院墓苑の台風被害

本年9月に関東を襲った台風15号は、その強烈な風雨で多くの損害を首都圏にももたらしました。

当院では以前から雨水対策を重視し墓地移設を進め、排水設備を充実させてまいりました。

その結果、本台風襲来に際して墓地の冠水や近隣への土砂の流失は全く見られませんでした。

これも墓所改良工事に賛同され墓地移設に協力してくださったお檀家の皆様のおかげであり、心より感謝申し上げます。

一方、一部で強風により塔婆建や燈籠が倒れたお墓が確認できましたので、個別にご案内し、修復もほぼ終わりました。

今後とも安全でお参りしやすい墓苑の維持管理に努めますので、檀信徒の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。



東日本大震災義援金募金のご報告

震災直後から梅窓院受付などに募金箱を設置して行ってまいりました募金活動は、9月30日を持って終了致しました。

集まりました募金を、下記の通り赤十字社を通じて被災地へお送り致しましたことをご報告申し上げます。

たくさんの方々にご協力頂き、誠にありがとうございました。

3月16日(水) ~9月30日(金) **188,508円**

発行/梅窓院
発行日/平成24年1月1日
発行人/中島 真成
編集/青山文化村
住所/〒107-0062
東京都港区南青山2-26-28
電話/03-3404-8447
FAX/03-3404-8446
ホームページ/http://www.baisouin.or.jp/
E-Mail/jodo@baisouin.or.jp
題字/中村康隆元浄土門主
総本山知恩院第八十六世門跡

平成24年 年間行事予定

◆修正会 1月1日(日)

◆第55回 念仏と法話の会
2月10日(金)

◆春彼岸会法要・寄席・物産展
3月20日(火)

◆はなまつり 4月6日(金)～8日(日)

◆団体参拝旅行 愛知 大樹寺
4月20日(金)～21日(土)

※詳細は春彼岸号にてお知らせ致します。

◆大施餓鬼会法要 5月19日(土)

◆第56回 念仏と法話の会 6月5日(火)

◆開山忌法要 6月9日(土)

◆孟蘭盆会法要 7月13日(金)

◆秋彼岸会法要・寄席 9月22日(土)

◆お彼岸ライブ 9月23日(日)

◆文化講演会 10月20日(土)

◆十夜法要・芋煮会 11月17日(土)

◆ファンデンブック ピアノリサイタル
11月開催予定

※予定は変更になる場合がございます。ご了承下さい。

平成23年度 後期 仏教講座のご案内

全講座▶午後6時～8時 受講料▶無料 場所▶祖師堂

講題/漢詩の中の仏教

講師/阿川 正貫 先生(浄土寺住職 大正大学講師)

- 第2回…1月23日(月) 絶句・律詩の規則ほか
- 第3回…2月27日(月) 詩人たちと仏教ほか

講題/『発心集』を読む(II)

講師/新井 俊定 先生(天然寺住職 大正大学出版会主管)

- 第2回…2月21日(火) 長明と『往生要集』
- 第3回…3月26日(月) 『発心集』にみられる神明と仏

講題/大乘仏教を読む

講師/勝崎 裕彦 先生(香蓮寺住職 大正大学仏教学部長)

- 第2回…1月12日(木) 華嚴経を読むⅢ — 十地の階梯を歩む①
- 第3回…2月16日(木) 華嚴経を読むⅣ — 十地の階梯を歩む②

講題/法然上人のみ教え —『選択集』を読む—

講師/林田 康順 先生(大正大学准教授、大本山増上寺布教師、慶岸寺副住職)

- 第3回…1月30日(月) 『選択集』第4章② 一廃助傍の三義について—

講題/宗教と現代文化論

講師/本林 靖久 先生(真宗大谷派僧侶 大谷大学・佛教大学講師)

- 第2回…2月3日(金) 無縁社会と共同墓
- 第3回…3月2日(金) 死にゆく人と看取り

※各講座第3回目の最終講座は、後半、茶話会となります。

講師の先生方や受講生同士、この機会に交流を深めてください。

※詳細は同封のご案内をご覧ください。

我が家の宝物!

まご

くん(11ヶ月)

投稿者より

初めての「ひまご」です。来れば部屋中をはいまわり
元気そのもの。ニコニコ顔も忘れずに。歩行も始まり、
目がはなせない!! (曾祖父・)

編集部より

初めてひいおじいちゃんからのご投稿です!

お写真大募集!!

お孫さんと一緒のお写真と推薦者のおじいちゃん・おばあちゃん
のコメント(30～150字程度)を青山文化村までどしどしお
送り下さい。お孫さんのお名前、お年も忘れずに。(お送り頂いた
お写真は返却できませんので予めご了承下さい)掲載させて頂
いた方には御礼として梅窓院煎餅を差し上げます。

〒107-0062 港区南青山2-26-28

青山文化村「我が家の宝物」募集係